■ 技術セミナー

関連部署にご回覧下さい

モノづくり企業のための “攻め”の製品安全ビジネス戦略

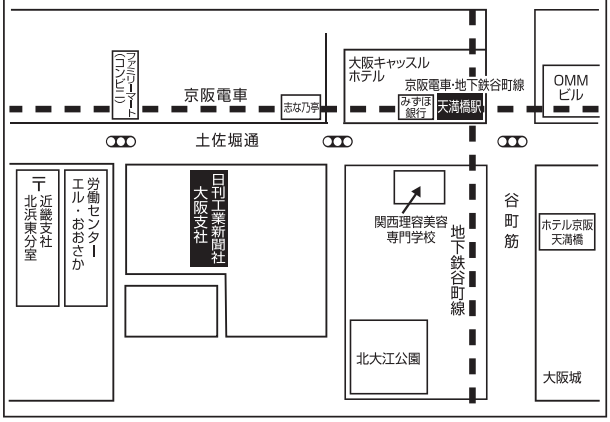
製品安全情報を核にブランドロイヤリティの向上へ

日　時：2014年 6月 11日（水）10:00～16:30
会　場：日刊工業新聞社 大阪支社 セミナールーム（大阪市中央区）
受講料：32,400円（テキスト、消費税込）※同時複数人数お申込みの場合2人目から29,160円
主　催：日刊工業新聞社

大阪会場（日刊工業新聞社　大阪支社10階）

大阪市中央区北浜東2−16　TEL：06(6946)3382

＊天満橋駅（京阪電車、地下鉄谷町線）下車徒歩3分
■新大阪駅から地下鉄御堂筋線（新大阪→淀屋橋）北側出口 乗換、京阪電車（淀屋橋→天満橋）西改札口
■大阪駅から地下鉄谷町線（東梅田→天満橋）北側2番出口



日刊工業新聞社 大阪支社 セミナー会場
〒540-0031　大阪市中央区北浜東2−16

●申込方法

申込書を郵送またはFAXにてお申し込み下さい。申込受付後、受講票と請求書をお送りいたします。参加料は銀行振込にて開催日までに必ずお支払いください。尚、お支払い済みの参加料はご返金できかねますので、ご了承ください。振込手数料は貴社でご負担下さい。

口座名　株式会社日刊工業新聞社　大阪支社

●りそな銀行　大阪営業部　当座　0403545
●みずほ銀行　天満橋支店　普通　0570519
●三菱東京UFJ銀行　谷町支店　当座　10186
●三井住友銀行　天満橋支店　当座　0260820

●申 込 先　日刊工業新聞社 大阪支社 事業出版部 セミナー係
〒540−0031　大阪市中央区北浜東2−16
☎ 06−6946−3382　FAX 06−6946−3389
http://www.nikkan.co.jp
seminar-osaka@media.nikkan.co.jp

キリトリセン

参加申込書　6/11　“攻め”の製品安全ビジネス戦略　お申し込みは FAX 06-6946-3389

■参加料：32,400円（テキスト、消費税含む）※同時複数人数お申込みの場合2人目から29,160円

会社名		業種	
氏名	フリガナ	部署・役職	TEL：
所在地	〒		FAX：
E-mail：		※今後、E-mailによるご案内を希望しない方はチェックをしてください。	□

※お申込み受付後、参加票ならびに請求書をお送りいたします。
※一度お振込みいただいた参加料につきましては、ご返金できかねますのでご了承ください。

個人情報の取り扱いについて

ご登録いただいた情報は日刊工業新聞社が細心の注意を払い、展示会・セミナー・サービス等、各種ご案内を送らせていただくことを目的に利用させていただきます。
尚、宛先変更・配信停止をご希望の際には、右記までご連絡ください。【ご連絡先】日刊工業サービスセンター　情報事業部　nkmail01@nikkansc.co.jp

参加のおすすめ

産業機器や民生機器にかかわらず、製品を取り扱う事業者にとって製品安全の確保はもっとも重視すべき経営課題の1つです。そして、具体的な方策として、リスクアセスメント（RA）を実施し、適切な保護方策を立てることで受容可能なリスクレベルに低減（リスクコントロール）したり、ユーザーとリスクコミュニケーションを図ったりすることが求められます。

ところが、こうした専門人材があまりにも不足しており、産業分野ではシステム承認が名目的なものとなり、ユーザー企業も提供側（システムインテグレーターなど）も責任をとらないケースがまかり通っています。また、民生分野では国際規格（例えばISO 10377:製品安全ガイドライン／ISO 10393:製品リコールガイドライン）を踏まえた製品情報の開示や、是正措置のための運営体制の構築が求められているにもかかわらず、ほとんどなされていません。

本講座は、こうした現状を踏まえ、「第1部」で機械安全およびそれにもとづく機械保守の現状に触れ、リスクベースの考え方（国際安全規格）にもとづきシステム全体に対してRAを実施できる「セーフティインテグレーター」の育成ならびに生産システムにかかるRAマニュアルを解説します。「第2部」では、上記国際規格にもとづく製品安全デザイン（ビジネス）戦略として、取扱説明書の作成方法と、それを起点とした製品安全情報の構築法を詳解し、企業価値の向上につながる製品安全ビジネス戦略の一助としてもらいます。製品安全を例に解説しますが、産業機器における活動にも共通する内容であり、工作機械メーカーをはじめ各種モノづくり企業の参加を広くオススメします。

プログラム

第1部 機械分野の製造物責任とリスクアセスメント（10:00～11:30）

●「国際安全規格「ISO 12100」ガイドとセーフティシステムインテグレーター」

日本機械工業連合会　標準化推進部　**宮崎 浩一** 氏

1. 機械安全の動向
   - 1-1　機械安全ISO 12100ガイドの概要

2. セーフティインテグレーターおよび機械のRAマニュアル
   - 2-1　最近の厚生労働省の動き
   - 2-2　機械安全のための セーフティインテグレーターの機能と育成
   - 2-3　機械工業の安全・安心のシステム構築に関する調査研究報告書
   - 2-4　機械設備のRAマニュアル（機械設備製造者用）

● 昼休憩（11:30～12:30）

第2部 製品&機械安全デザイン戦略（12:30～16:30）

●「企業価値向上につながる取扱説明書の作成法と製品安全情報の構築法」

株式会社コシダアート　執行役員　取説マスター事業部　取説マスタープロデューサー　**正木 秀樹** 氏

3. 消費者保護政策とその取り組み
   - 3-1　行政が管轄する主な製品安全ガイドライン
   - 3-2　流通・企業における義務・責任の明確化
   - 3-3　企業の製品安全に取り巻く環境とリスク
   - 3-4　ISO 10377 製品安全ガイドラインとは
   - 3-5　ISO 10393 製品リコールガイドラインとは

4. 各種マニュアルの安全対策
   - 4-1　取扱説明書の安全対策とは
   - 4-2　取扱説明書のつくり方
   - 4-3　構成要件
   - 4-4　各種マニュアルの基本構成
   - 4-5　ユーザー視点の導入
   - 4-6　安全な製品情報表示システム（SIS）とは
   - 4-7　取扱説明書の安全対策の効果&得られるもの
   - 4-8　企業内における取扱説明書の制作の課題・問題とその解決策
   - 4-9　属人的要素を排除した制作環境の標準化へ
   - 4-10 編集・制作システムのメリット【安全対策】【業務効率】【時間短縮】
   - 4-11 取扱説明書の編集・制作システムの流れ
   - 4-12 データベースで情報共有、一元化
   - 4-13 企業内外におけるリスクマネジメントとメリット

5.「アフターマーケット」に着目した製品安全デザイン戦略
   - 5-1　製品安全情報構築の重要性とデザイン手法とは
     - (1) 使用者の安全を見守るアフターサービス
     - (2) 製品のメンテナンスを考慮したアフターケア
     - (3) スマイルカーブから見るアフターサービス、アフターマーケットの重要性
   - 5-2　製品安全アフターサービスの見える化
     - (1) メンテナンス計画や定期的な部品交換は品質保証である
   - 5-3　「製品安全デザイン」導入の狙い
     - (1) 事業承継（持続可能性）
     - (2) 顧客満足度の向上
     - (3) 売上の拡充へ
     - (4) アフターマーケットの充実

6. 製品安全ビジネス戦略 “攻めの製品安全”でビジネスを優位に
   - 6-1　製品安全情報の構築と有効利用について
   - 6-2　製品安全情報を展開した販促展開の事例紹介
   - 6-3　顧客満足度の向上とブランドロイヤリティ向上
   - 6-4　経営視点と製品安全
   - 6-5　まとめ

● 本セミナーの利点

（1）各種ガイドに即した作成方法と、それの支援システムにより高精度な取扱説明書が作成できます。
（2）取扱説明書の構築システム（製品安全情報）の活用により機械の保全計画を見える化でき、アフターサポートを充実できます。
（3）製品安全情報の構築と活用により、攻めの製品安全ビジネス戦略につながります。